

小学6年3組 社会科学習指導案

授業者 和田倫寛

地方の武士が大切にしてきたことについて、資料をもとに考えを伝え合った後、友だちの考えを吟味したり自分の考えを再構成したりできるようにしたことは、武士のくらしのイメージを豊かにし、くらしを守るために領地や主従関係を大切にしていた地方の武士の生き方に迫るうえで有効であったか。

1 単元名 武士が大切にしてきたことを考えよう —平安末期から鎌倉—

2 授業の構想

(1) 本校の6年生は、4月に近畿地方へ修学旅行に行っている。その行程には東大寺や金閣の見学も含まれており、本学級の子どもたちも大仏の大きさや黄金に輝く金閣を目の当たりにして、驚きと感動の声を漏らしていた。この他にも、テレビや本を通じて歴史上の人物やできごとについて知っていることもあり、子どもたちにとって歴史は親しみやすいものになっている。一方で、子どもたちの発言を聞いてみると、実際にその時代を生きていた人々が実在したという感覚が薄く、脚色も含めた1つの物語として歴史像をつかんだり、人物のイメージをつくりあげたりしたようすもあった。

歴史的分野の学習をスタートしたばかりの子どもたちにとって、過去に生きた人物や起こったできごとについて歴史的事実だけを学習しては、実感をともないながらとらえることは難しいのだろう。その時代に生きた人々の思いや選択、社会システムの意味を「なるほど」という実感をともなって理解するためには、資料から読み取ることのできる歴史的事実と、今を生きる自分とを重ねあわせながら考えることが大切だと考える

今、社会科では奈良の大仏をつくることを命じた聖武天皇について、どんな人だったのかを学習しています。ある日の学習で、誰かが「聖武天皇は、今の菅直人さんみたいな存在だったのではないか。」と言った意見から、「じゃあ、大仏づくりは命がけの仕事だったけど、さからうとかさからえないとかじゃなくて、自然に言うことが聞けたんじゃないかな。」という意見と「そうじゃなくて、やらないと死刑みたいな感じで無理矢理やらされたんじゃないか。」という意見とに分かれてしまいました。

それで教科書や資料集で、聖武天皇はどんな人だったのか調べてみました。すると、大仏づくりを命令するための詔に「大仏づくりのために人々のくらしを乱したり無理にもものを取り立ててはならない。」とかいてあるのを見つけました。そこから、聖武天皇は人々のことを考える優しい人だったんだなと思いました。

これから、こんなことができる天皇がなぜ生まれたのか、時をさかのぼって考えます。とても興味がわいてきたので、これからの学習が楽しみです。

これは、「大仏ができたひみつをさぐる～大仏をつくった聖武天皇ってどんな人？～」の学習で聖武天皇の存在について考えた日の児童Aの日記である。ここには、聖武天皇の社会的存在を現在に置き換えた友だちの発言によって、学級の意見が分かれ、実際はどうか確かめようと意欲的に追求した姿が現れている。この段階では、「聖武天皇は優しい」という心情的な感想にとどまっており、天皇制や朝廷による統治範囲の広がりという社会システムについての認識まで至っていなかった。しかし、わかったことを伝え合うことで、新たな疑問が生まれ、さらに追求していこうという意欲の高まりが見られたこの学習過程は、実感をともないながら社会認識を高めることにつながっていくと考える。このような学習を積み重ね、歴史的事象に対する認識と自分の生き方とを結び付けることができる子どもを育てていきたい。

(2) 本単元で扱う平安時代末期から鎌倉時代とは、自らの土地を守るために武装したことで誕生した武

士が、その力を認めた貴族の警固にあたったことをきっかけに力もち、為政者としてその勢力を全国へと拡大させた時代である。その代表的な存在が、平清盛であり、源頼朝である。

平清盛は、保元・平治の乱での功績が認められ、武家として初めて公卿となった人物である。その後、武家的な面を残しながら、知行地の拡大や天皇家との姻戚関係の成立など貴族的な手法によって勢力を拡大した。栄華を極めたその平家を倒し、武家の最高位・征夷大將軍となって鎌倉幕府を開き、武家政権を成立させたのが源頼朝である。

頼朝が平氏に対し挙兵した理由については、地方に存在した領主間の競合を解消したい武士が頼朝の下に集結したことが挙兵に結びついたという論がある。つまり、後白河院幽閉後に清盛が各地に補任した者とそれまでの権益を持ち続けようとする者の間や、もともと領地を接している者の間で起こっていた対立を解消するためのいい機会として、平家追討の令旨が多く多くの武士にとらえられたとする考えである。領地に関する問題を解決したい地方武士に対して、頼朝は「敵方所領没収」と没収地の「新恩給与」と「本領安堵」を行っている。つまり、戦いに勝利した後、敵方本拠地を軍事的に占領するとともに、地域社会における利権を味方した者に保障することを行ってきた。朝廷の中で勢力を拡大した清盛には、このような行為を朝廷に許可なく行うことは不可能であり、役職に応じた知行地を認めさせることが限界であった。それに対し、「新恩給与」「本領安堵」が可能な源氏の下には、多くの地方武士勢力が集結し、平家を倒すことが可能なほどに拡大していったとされている。この手法は鎌倉幕府成立後も続けられ、いわゆる「ご恩と奉公」と言われる権力の根幹を担うシステムとなっていった。

このとらえは、システムを源頼朝や幕府側から見たものであるが、地方武士のシステムのとらえは違っていたであろう。当時の武士は、武芸に専念しているものは少なく、多くは農業を営みながらその土地を守るために武装しているという存在だった。また、農業を営んだり領地を守るために、多くの一族・郎党がつながりあってくらしていた。したがって、そんな地方武士のシステムのとらえは、自らのくらしを守るためのシステムと言えたできるだろう。

つまり、幕府がその勢力を拡大することができるとともに、半農半武で存在していた地方武士にとっては自らのくらしを守るができるという両方の側面があったからこそ、この「ご恩と奉公」というシステムは有効に機能し、武家政権確立に大きな役割を担ったと言える。

(3) そこで本単元では、半農半武の地方武士が自分の領地を守ったり、広げようとしたりしたようすとらえ、当時の武士は「ご恩と奉公」と言われるシステムによって、一族や農業といった自分のくらしを守ろうとしていたという見方・考え方ができるようになることをねらいとする。言い換えれば、武士とは、ただ勝利を求めて戦うだけの存在ではなく、地に足をつけて農業を営み、そこでできた米などの農産物によって家族や郎党を養うくらしを送る存在であり、そのくらしを守ろうとしていた存在だったと認識を深めていくことをねらっている。子どもたちは武士を戦う存在であるというイメージをもっていることから、その一面的な見方を変容させることが可能となる以下のような単元構成を考えた。

第1次では、地方武士のくらしのようすを、館やそこでくらす武士が描かれた絵から読み取っていく。絵の中には、武芸に励む姿や馬を飼っているようす、館のまわりに塀や櫓があるようすが読み取れる。そのような絵を見たとき、子どもたちは主に自らのイメージに沿った戦いに関わる情報を収集していくだろう。

そこで第2次では、「武士が力をもつようになった理由を明らかにしよう」という学習課題で追求を行っていく。まず、平清盛と源頼朝がそれぞれ力をもつようになった理由を調べることで、平清盛の高い位を得たり姻戚関係によって力をもった手法から、源頼朝の領地を安堵する手法へと変化したこと気づかせていきたい。また、元寇後に竹崎季長が恩賞奉行・安達泰盛に訴えている絵（「蒙古襲来絵詞」）から、元寇やその後の武士のくらしのようすを調べ、どうしても土地が欲しいと訴える竹崎季長の心情について考えさせる。前半では、位を与える清盛と土地を安堵する頼朝のどちらが地方武士にとって求めていた存在かを考えていくことで、武士にとっての領地の大切さ気づかせたい。後半では、恩賞として馬や武具ではなく、なぜそこまで武士が領地を求めていたのか疑問がもてるようにしたい。

このような過程を通じて、繰り返し自分の意見を伝えたり、友だちの意見を聞いたりできるようにす

る。さらに第3次は、これらの学習過程のまとめとして位置づけ、地方武士が何を大切にしてきたのかを話し合うことで、武士のくらしについてイメージをふくらませるようにする。その際、第1次で見た武士のくらしのようすが描かれた絵に立ち返るようにすることで、さまざまな資料から得た知識を武士のくらしと結び付けてとらえられるようにする。同時に、自分がもっていなかった新しい見方や考え方について、この絵を根拠に確かめることによって、友だちの考えを吟味したり自分の考えを再構成したりできるようにしたい。

このような単元構成をすると同時に、地方武士が大切にしていたことを子どもが何と考えているかを追っていきけるよう、単元を通して同一観点での評価を行っていく。これにより、変容のようすをとらえられるようにするとともに、なぜ土地を大切にしていたのか掘り下げていくことで地方武士の思いに思考が向かえるようにし、土地を大切にしていた意味を「なるほど」という実感をともなって理解できるようにしていきたい。

3 単元指導計画（全7時間 本時7/7）

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	武士のくらしについて読み取ろう。	1	○武士のくらしについて、貴族のくらしと比べながらその特徴を明らかにする。
2	武士が力をもった理由をさぐろう。	2 3 4 5	○平清盛と源頼朝が力をもつようになった理由を調べ、武士が力をもつようになった理由を考える。 ○元寇のようすを調べ、竹崎季長が元寇後に安達泰盛へ訴えている言葉を考え、込められた願いについて話し合う。
3	武士が土地を大切にしていた理由を考えよう。	6 ⑦	○これまでの学習をふまえ、地方武士が土地を大切にしていたことがわかり、その根拠を明らかにする。 ◇これまでの学習や友だちの意見を聞いたことをふまえ、地方武士が土地を大切にしていた理由を話し合う。

4 「学び合い」による思考力・判断力・表現力

次時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
				A	B	C
1 2 3	武士のくらしについて読み取ろう。 武士が力をもった理由をさぐろう。	資料をもとに武士が土地を大切にしていたことについて、そのくらしのようすから考えている。	ノート 発言	武士が農業に携わっていたことを根拠に、主従関係や家族といったつながりを大切にし、そういったくらしを守るために土地を大切にしていたと示すことができている。	大切なものは土地、あるいは主従関係や家族といったつながりだと示しているが、それぞれを関連づけて考えることができていない。	大切にしていたことについて、一つの考えから広げることができていない。
3 ⑦	武士が土地を大切にしていた理由を考えよう。					

5 本時の学習

(1) ねらい

地方武士は、農業を営み、家族や一族、郎党を養うために必要な土地を大切にしており、その土地を守るために戦いに出ていると考えることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. 前時までの学習をふりかえり、武士が大切にしていたものを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地を大切にしていた。 ・竹崎季長は元寇で戦った恩賞としてどうしても土地がほしいと訴えるために絵を描かせたり鎌倉まで行ったりしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習してわかった、武士が土地を大切にしていたようすを確認することで、学習課題を共通してもてるようにする。
<p>なぜ武士はそこまで土地を大切にしていたのか、話し合おう。</p>	
<p>3. 自分の考えを伝え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地っていうのは、ご恩と奉公でもらっていたように、今で言うと給料みたいなものだったんだと思う。給料がなくなるのはいやだから、土地がほしいって言っていたんじゃないかな。 ・でも、それならお金でもよかったんじゃないかな。季長が土地にこだわっていたのはなんでなんだろう。 ・土地がほしいって訴えていたけど、それはただ土地がほしくてじゃなくて、土地があれば農業ができるからだと思う。館のまわりには、田や畑がいっぱいあるし。 ・弥生時代に争いが起きていたのは、米づくりが始まったからだだし、その時と同じように、たくさんの人が生きるために戦ったんじゃないかな。 ・家族や家来もたくさん絵の中に描いてあるし、だから、本当に大切にしていたのは、家族や家来の人たちの暮らしや命だったんじゃないかな。だって、土地がなくなるとその人たちの食べ物がなくなるわけでしょ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ土地を大切にしていたか」という問いに対する個々の考えは、前時でまとめている。異なる意見が話し合いの場に出せるように、その内容を把握しておくことで、考えを比較しながら話し合い、土地を大切にしていた理由が明らかにできるようにする。 ◎第1時で扱った武士の暮らしを描いた絵を掲示し、言いたことが表れている部分を示しながら主張させることで、第1時に比べ見方が変わってきていることを確認できるようにするとともに、武士は多くの人とともに暮らし、農業や武芸の訓練などをしながら暮らしていたことがつかめるようにする。 ◎武士が土地を大切にしていた理由は、農業を営んでいたこと、武芸の練習をしていたこと、多くの家族や郎党を養っていたことなどさまざまに考えが出されるだろうが、そのようなくらしをしていた背景を考えさせることによって、それぞれをつなげて考えられるようにしたい。
<p>4. 学習をふりかえり、自分の考えを記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ土地を大切にしていたのか、その理由を考えたけど、土地があればお米が作れるし、お米があれば一緒にくらしている人たちや自分の暮らしを守ることにつながっていたんだと思いました。だから武士は土地を大切にしたんだと思います。その暮らしを守ってくれるのが、土地をくれる幕府だったんだと思う。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>評価の観点(思考・判断・表現)</p> <p>話し合いを通して、武士が大切にしていたことを考え、自分の暮らしを守るために、武具や武芸、領地や結びつきを大切にしていたという見方・考え方ができている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・書いたふりかえりを数名紹介し、一つの見方・考え方として認めていくとともに、第1時と比較した見方・考え方の変容を、学習の成果として実感できるようにする。